

令和3年度 読み解くカプロジェクト研究

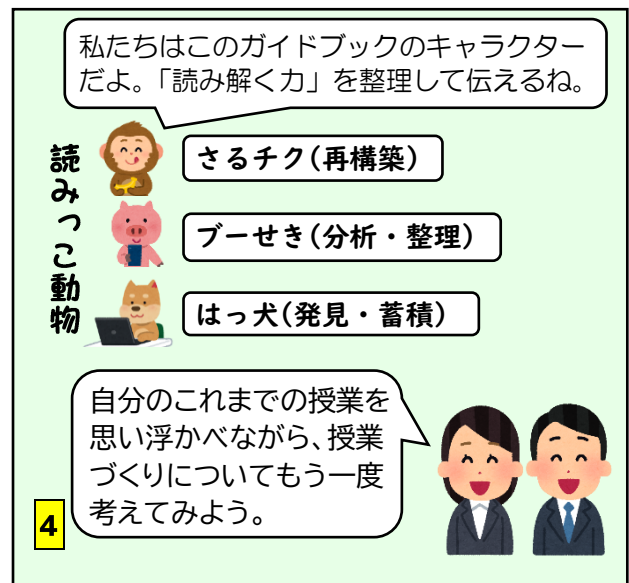


「読み解くカ」 授業づくりガイドブック

このガイドブックは、「読み解く力」の育成に重点を置いた授業づくりを進める際に活用していただくことを想定しております。これまでの研究で取り組んだ授業の実践事例や、そこから明らかとなった授業づくりのポイントを参考にして、具体的に自身の授業づくりを想定していただくことにより、さらなる授業改善へつなげていただければと思います。

表紙は令和3年度読み解く力プロジェクト研究で取り組んだ授業実践の様子を撮影したものです。どの授業においても、子どもがICTを効果的に活用し、主体的に学習に向かう姿が見られました。表紙上部の「教えるから支えるへ」という言葉は、「指導者が全て教える」スタイルから「子どもが主体となる授業を指導者が支える」スタイルへと変換していくという意味を込めたものです。「指導者が何をさせたいか」ではなく、「子どもが何を学ぶのか」という視点を大切に授業づくりを進めましょう。

プロローグ



目次



プロローグ

目次

第1章 理論編



「読み解く力」とはどんな力？
「読み解く力」を育成するためには？

… 1

1 「読み解く力」

(1) 「読み解く力」とは？ … 2

(2) 「読み解く力」の育成に重点を置いた授業とは？ … 2

2 「読み解く力」の育成に重点を置いた授業づくりのポイント

(1) 各プロセスにおいて … 3

(2) 年間を通して … 4

(3) 単元を通して … 6

(4) 一単位時間で … 8

(5) ICTを効果的に活用して … 9

第2章 実践編



どのように授業を
実践すればよいのかな？

…11

1 「読み解く力」の育成に重点を置いた授業実践

(1) 各プロセスに着目した実践事例 …12

① 「発見・蓄積」のプロセス 小学校 第4学年 総合的な学習の時間 …12

② 「分析・整理」のプロセス 中学校 第1学年 国語科 …14

③ 「再構築」のプロセス 中学校 第2学年 外国語科 …16

(2) 各シートを活用した授業づくりの実践事例 …18

① 年間を通して …18

② 単元を通して } 小学校 第4学年 算数科 …19

③ 一単位時間で } …20

(3) ICTを効果的に活用した実践事例 小学校 第5学年 理科 …21

エピローグ

資料



私たちと一緒に「読み解く力」の育成に重点を置いた授業を構想してみよう。

1 「読み解く力」マネジメントシート様式

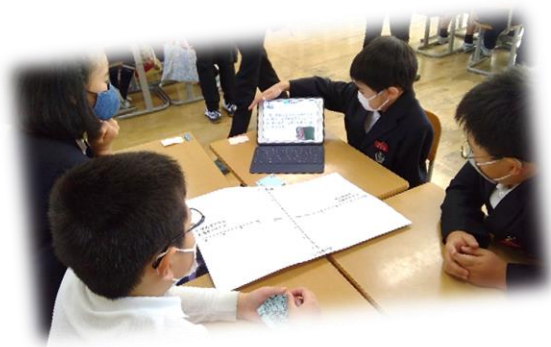
2 単元構想シート様式

3 授業ナビシート様式

4 「読み解く力」学習指導案様式

第1章

理論編



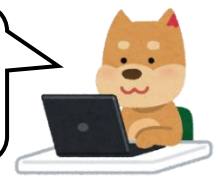
「読み解く力」

(1) 「読み解く力」とは？

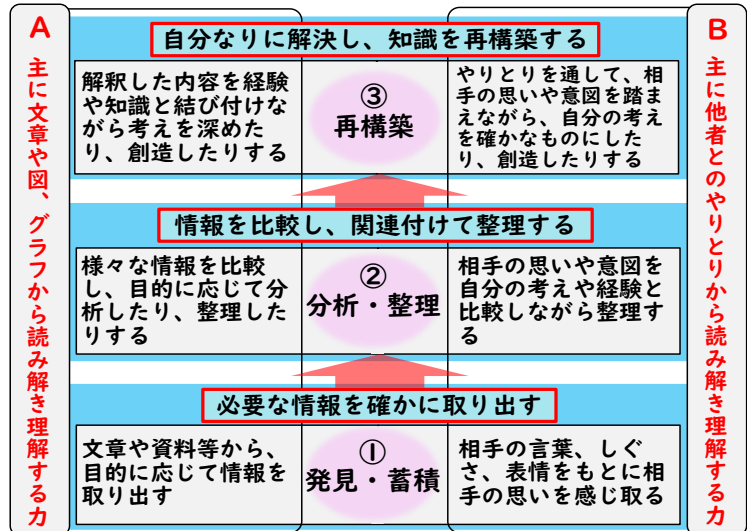
右のイメージ図のように、「読み解く力」は、AとBの二つの側面と①から③の三つのプロセスで整理されます。「読み解く力」は全ての教科等の学習や、普段の生活での友達との会話や遊び、読書など様々な場面で発揮される力です。

「読み解く力」は、子どもが本来もっている力であり、学習経験や生活経験を通して、高め、発揮するものです。「読み解く力」を、高め、発揮するためには、子どもが目的意識をもって学習活動に取り組むことが重要となります。子どもが、教科等の学習において、必要な情報を取り出し、それを根拠にして考えを構築し、対話することで考えを磨き、再構築につなげていくことが、各教科等で目指す資質・能力を確かに育成することにつながります。

「読み解く力」ってどんな力かな？
まずは「読み解く力」についておさらいしよう！



「読み解く力」イメージ図



このイメージ図にかいてある力が「読み解く力」なんだね！



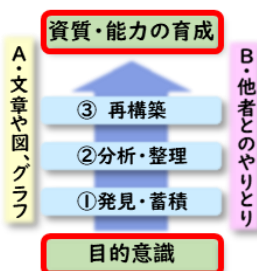
子どもが主体となり、学習のゴールを見据え、目的意識をもって学びに向かうことが何よりも大切だよ。指導者が子どもを引っ張っていくんじゃなくて、子どもが自ら進んでいくことが大事なんだ。



(2) 「読み解く力」の育成に重点を置いた授業とは？

子どもが、「読み解く力」を、高め、発揮することを通して、各教科等で目指す資質・能力の育成を図る授業のことです。指導者は、「読み解く力」イメージ図にある二つの側面と三つのプロセスを関連付け、学習展開や手立てのあり方を考えます。

研究を通して見えてきたこと




「読み解く力」を育成するためには、二つの側面と三つのプロセスを関連付けて授業づくりを行うだけでなく、「最初に目的意識をもって学習活動に取り組むこと」「最終的に各教科等で目指す資質・能力の育成につなげること」が大切であると研究を通して見えてきました。左図のように文言を加えるなど、「読み解く力」イメージ図は研究を進める中で改編を続けています。

2 「読み解く力」の育成に重点を置いた授業づくりのポイント

(1) 各プロセスにおいて



特に各プロセスでは、どのようなことを意識して授業を構想していけばいいのかな？

<p>三つのプロセスの前に… (目的意識をもつ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「再構築」した子どもの姿を具体的に想定し、そこから「終末→展開→導入」へとさかのぼった授業・単元を構想しましょう。 ・学習のゴールを子どもと共有し、解決への見通しがもてるようにしましょう。 ・指導者の指示で子どもが活動するスタイルから、子ども自身が課題を見いだすスタイルへと変換していきましょう。 <div data-bbox="518 750 1228 940" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>子どもが、目的意識を明確にもつことで、学習内容を自分事として捉え、学習内容に対して疑問をもったり、目的を達成した自分の姿をイメージしたりすることができるようになるんだ。</p> </div> 
---	--

三つのプロセスでは…

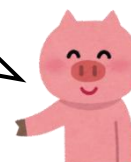
<p>①発見・蓄積</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目的意識を大切にし、目的に応じて必要な情報を取り出せるように発問や教材等を工夫しましょう。 ・子ども一人ひとりの学びの状況を見取り、グラフや表などの読み取り方や文章の読み方等を丁寧に指導しましょう。
<p>②分析・整理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合う意義や必然性を大切にされた指導をしましょう。 ・子どものどの考えを、どの順番で、どのように関連付けながら取り上げるとよいか、子どもの姿を見取りながら、授業をコーディネートしましょう。
<p>③再構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを子ども自身の言葉で言語化するなど、「まとめ」や「振り返り」の充実を図りましょう。(視点を明確化して、ワークシートへの記入を積み重ねたり、価値付けしたりすること等)

①～③の三つのプロセスは、順序よく繰り返されるわけではなく、行ったり来たりする場合や、一つの活動の中に複数のプロセスが同時に行われる場合もあります。また三つのプロセスを最大限に生かして学習過程を構築するためには、単元全体で三つのプロセスを循環させていくこともあります。



三つのプロセスの主語は、「子どもが」(～する)になるのかな？

うん！何のために「発見・蓄積」をするのか、何のために「分析・整理」をするのか、何のために「再構築」をするのか、子どもが学習の目的を理解して取り組むことが大切だよ。



(2) 年間を通して



じゃあ早速、「読み解く力」の育成に重点を置いた授業づくりを始めていこうと思うんだけど、始める前に意識しておいた方がいいことあるかな？

「読み解く力」を育成するためには、1時間の特別な授業だけ、特定の教科の授業だけ…というのではなく、全ての教科・領域等の学習で幅広く、年間を通して継続した授業づくりを行うことが大事なんだよ。



「読み解く力」の育成は1回の授業だけではできないよ。年間を見通して継続的・計画的に「読み解く力」を育成することで、子どもが各教科等で目指す資質・能力をより確かに身に付けることにつながるんだ。

ポイント①

育成を目指す資質・能力を明確にする

指導者が授業づくりを進めるにあたり、学校や学級の子どもの実態を把握し、年間を見通して継続的・計画的に「読み解く力」を育成していくことが大切です。各教科等で育成を目指す資質・能力を設定する際に、学校としてどのような子どもの姿を目指すのかを確認したり、他学級・他学年の指導者とも情報を共有したりすることで、ゴールをより明確にした授業づくりを行うことができます。

ポイント②

授業づくりにおけるPDCAサイクルの確立を図る

指導者が年間を通して計画的に「読み解く力」を育成するためには、授業づくりにおけるPDCAサイクルの確立を図ることが大切です。

P(計画)では、各教科等や単元で育成したい資質・能力を明確にし、子どもが「読み解く力」を、高め、発揮するために、どのように目的意識をもち、何を、どのように「発見・蓄積」「分析・整理」し、どのような「再構築」をするのか想定します。

D(実践)では、計画に沿って授業実践を行います。実践を繰り返す中で、板書を写真にとったり、学習の成果物や子どもの振り返りの記述等をコピーしたりして、実践に関する資料を蓄積していきます。

C(省察)では、蓄積した資料を基に授業実践の成果や課題を振り返ります。

A(改善)では、全ての教科・領域等の学習においても、今後の授業実践に生かせると思ったこと等をまとめます。

これらを繰り返すことで、指導者は、子どもが「読み解く力」を、高め、発揮する授業づくりのポイントを見だし、授業実践につなげるというPDCAサイクルが確立され、計画的に「読み解く力」を育成することができます。



自分が考えたPDCAサイクルについて発表している指導者(プロジェクト研究会にて)

年間を通して「読み解く力」を育成するために、次のシートを紹介するよ。



『読み解く力』マネジメントシートを活用しよう

年間 単元 本時

令和2年度研究で開発した『読み解く力』マネジメントシートを活用すると、年間を見通して、計画的に「読み解く力」を育成することができます。また、校内研究・授業参観を通して学んだことや、自身の実践を通じた成果と課題を積み重ね、実践に生かすことで、「読み解く力」を育成する授業づくりのPDCAサイクルの確立を図ることができます。

① 学校教育目標・校内研究主題・子どもの実態等を確認する。

『読み解く力』マネジメントシート ★全ての児童生徒が「読み解く力」を、高め、発揮し、学びを実感できる授業づくりに向けて		(担当学年・学級)	(氏名)	
学校教育目標 郷土を愛し 世界と未来に目を向け 心豊かに たくましく生きる子どもの育成		2年〇組 国語	□□□□	
校内研究主題 『自分の言葉』でいきいきと伝え合う子どもの育成～思いや考えのやり取りができる子を目指して～		指導の重点 どの子も「やってみよう」と思うような課題を設定し、友達と考えを伝え合う中で、自分の考えを確かにもてるようにする。		
月	「読み解く力」の育成を図る授業について	校内研修や授業参観を通して	自身の実践を通して	
	P ①教科 ②単元 ③育成したい資質・能力 ④重点となる指導事項	D 単元 構想 シート ・授業 ナビ シー ト ・学 習 指 導 案 等 を も と に 授 業 実 践 を 行 う	C ①今後の実践で取り組みたいこと ②学校に広げたいこと ③汎教育的な視点で他教員へ取り組む視点	
4月	《4～7月の授業実践》 ①国語科 ②「スイミー」(光村図書) ③場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること ④【知識及び技能】 (1)言葉の特徴や使い方にに関する事項 オ(思考力、判断力、表現力等) C 読むこと エ	《4～7月の授業実践》 【再構築をしている姿】 ・紹介するために選んだ言葉や文について交流したことを生かして、より場面の様子に着目して登場人物の行動を具体的に想像している姿 【発見・蓄積】 ・全文読みを繰り返すことで、場面がつながってひとつの話になっていることに気づく 【分析・整理】 ・付箋に本文から想像したことを記入し、友達と交流することで想像したことの相違を明らかにする 《8～12月の授業実践》 【再構築をしている姿】 ・友達と交流を通して、付け足しの一語の中から適切な一言を決め、自分の考えを明確にしている姿 【発見・蓄積】 ・場面の様子に着目し、登場人物の行動や気持ちを具体的に想像し、付け足しの一語を考える	教師が「させたい」ではなく、子どもが「やってみよう」と思える課題の設定。 再構築に向けて、一人ひとりの考えを確かにしていくための交流の在り方について。 再構築に向けて、子ども達が話し合いたいと思える交流場面とはどこなのかを見極める必要がある。 目指す姿を実現していくために、そのときの授業についてだけ考えるのではなく、日々の積み重ねの中から計画的に力を付けていくことが大切だということを知った。 子どもが自分自身の目的や必要性を感じられる話し合いが大切だと学んだ。それを実現していくために、子ども自身が何のために学ぶかを意識していく必要がある。 子ども達が「やってみよう」と思うゴールの設定。目的意識があることで、必然性のある交流や学ぶ意欲の持続につながる。 学習したことがすぐに生かせるような学習過程の工夫。教科書教材での学びを並行読書にすぐに生かせることで、やりとりの内容がより確かなものになった。 子ども達の気づきが生まれるような教材や学習過程の工夫。	教師主導で交流させるスタイルを減らす。 子ども達とともに学習計画を立て、進んでいくことで、主体的に取り組める子どもが増えた。 一人ひとりが、自分の考えを確かにもてることに確保することで、交流への意欲が繋がっている子がいた。 逆算して子どもたちに力を付けていくことで、結果的にそのことが本時のよりよい交流につながったり、再構築へつながる基本になっていくことを改めて感じた。 自力解決とペアでの学習を繰り返すことで、自分の考えに自信がもてたり、個々の学びが深まっていると感じられたりする場面があった。 教師主体で授業を進めるのではなく、子どもが自ら判断して学習場面を選択することで、子ども主体の授業になり、学びがより確かなものになった。 交流のための“共有”の仕方を意図的に仕組むことで、交流のやりとりがより活発になった。 自力解決で自分の考えをしっかりともち、その後の交流で気づきが多くなるとともに、その後の学びが確かなものになる。
5月				
6月				
7月				
8月				
9月				
10月				
11月				
12月				

③ 授業実践

② 年間を通してどのように「読み解く力」を育成するか計画を立てる。

④ 校内研修や授業実践を通して学んだことや、自身の実践を通じた成果と課題について記録する。

⑤ 次の授業に生かすこと、校内に広めようと考えたことをまとめる。

(3) 単元を通して



年間を通して「読み解く力」を育成することは分かったわ！次はもう少し細かいスパンでの授業づくりについて考えてみるわ。単元ごとに「読み解く力」を育成するために、意識しておきたいポイントってどんなことがあるかな？

「読み解く力」は、1時間1時間ごとに、高め、発揮するだけではなく、単元全体を通して、高め、発揮していくことが大事なんだ。



単元の学習に入る前に意識しておきたいポイントを次に示すよ！

ポイント①

単元を通して目的意識をもち続けるようにする

単元の導入において、この単元が日常の生活の中とどうつながっているのか、または学んだことでどのようなことが達成できるのか、子どもが「取り組みたい」と思えるような課題の設定が大切です。子どもが学びの必然性を感じるような課題の設定を行うことで、単元を通して目的意識をもち続け、学習に向かうことができます。

ポイント②

子どもが主体となる授業を単元を通して構想する

単元を構想する際、子どもが主体となるように、単元全体で二つの側面と三つのプロセスを関連付けて構想することで、「読み解く力」の育成に重点を置いた授業の実現へとつながります。

そのために、単元のゴールを見据え、そこから終末→展開→導入へとさかのぼった単元構想を行います。(例、育成したい資質・能力は何か→その育成のためにどのような「再構築」の姿を想定するか→「再構築」につなげるためには、何をどのように「分析・整理」「発見・蓄積」すればよいのか→子どもが主体的に学習し続けるためにはどのような課題設定が適切か)

また、単元の最初に学習の目的やゴールを共有し、到達するためには何ができるようになったらよいのか、どのような学習活動が必要かを子どもとともに考え、学習計画を立てる活動を行うことも大切です。単元のゴールまで見通しているからこそ、子どもが主体的に課題の解決に向けて取り組んでいくことにつながります。また自己の学びを調整する力を発揮することで、よりよく「再構築」をして、学びを実感することにつながります。

子どもが単元を見通すための工夫

- ・単元計画や単元目標を導入後に掲示しておく。
- ・今までに学習してきたことを適宜、掲示しておく。
- ・子どもそれぞれの学習状況を可視化しておく。



例、単元計画の掲示

作品名		アイスクリーム	そのかじり	そこのかじり	そこのかじり
はるがきた	はるがきた	はるがきた	はるがきた	はるがきた	はるがきた
はるがきた	はるがきた	はるがきた	はるがきた	はるがきた	はるがきた
はるがきた	はるがきた	はるがきた	はるがきた	はるがきた	はるがきた
はるがきた	はるがきた	はるがきた	はるがきた	はるがきた	はるがきた
はるがきた	はるがきた	はるがきた	はるがきた	はるがきた	はるがきた
はるがきた	はるがきた	はるがきた	はるがきた	はるがきた	はるがきた
はるがきた	はるがきた	はるがきた	はるがきた	はるがきた	はるがきた
はるがきた	はるがきた	はるがきた	はるがきた	はるがきた	はるがきた
はるがきた	はるがきた	はるがきた	はるがきた	はるがきた	はるがきた

例、「並行読書マトリックス」

単元を通して「読み解く力」を育成するために、次のシートを紹介するよ。



「単元構想シート」を活用しよう

年間 単元 本時

単元の始まりでは、子どもの実態を正確に把握し、その単元で目指す子どもの姿を具体的に想定することが大切です。「単元構想シート」を活用することで、子どもが主体となるように、単元目標を基に単元の流れを構想し、「読み解く力」の二つの側面と三つのプロセスを関連付けて、目指す子どもの姿を具体的に想定することができます。さらに、その姿の実現に向けた手立てや工夫を考えることができます。

① 学習指導要領等を参考にして、当該単元で育成したい資質・能力について単元目標として記述する。

② 「読み解く力」を、高め、発揮している姿を、二つの側面と三つのプロセスで具体的に想定する。

単元構想シート		〇〇中学校 第3学年 数学科	単元名「相似な図形」	全22時間
<p>① 単元目標 (育成したい資質・能力)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○平面図形の相似の意味及び三角形の相似条件について理解することができる。(知識及び技能) ○三角形の相似条件などを基にして図形の基本的な性質を論理的に確かめることができる。 ○平行線と線分の出についての性質を見だし、それらを確かめることができる。(思考力・判断力・表現力等) ○相似な図形の性質のよさを実感して粘り強く考え、図形の相似について学んだことを生活や学習に生かそうとして、相似な図形の性質を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていたりする。(主体的に学習に取り組む態度) 	ICT活用	ICT活用	ICT活用	ICT活用
<p>単元の流れ ○主な学習活動 □指導上の留意点</p> <p>①どのように拡大されているかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> □現実起こる現象を簡単な図形に表すことを丁寧に確認する <p>②形を変えずに拡大してできる図形の性質を調べてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> □元の図と拡大した図のどこどこが違うのかというところを明確にして、相似の定義へと導いていく <p>③相似な図形をかき方法を考えてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> □相似な図形をかきときには、相似な位置を利用することが有効になる場合が多いことも確認しておく <p>④相似な図形の辺の長さを求めてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> □対応する頂がポイントになることを生徒の意見や活動から交流していく <p>⑤ある三角形と相似な三角形をかきためには何がわかればよいかを考えてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> □三角形の合同条件との対比をして考えていく <p>⑥相似条件をつかって相似な三角形を見つけよう</p> <ul style="list-style-type: none"> □図形を並べて書くなどして、考えを助けるような工夫をしていくようにしていく <p>⑦三角形の相似条件を利用して、図形の性質を調べてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> □証明をかく際、解決への筋道を考えるときに、結論から逆に考えて構築していくような力を身に付けるようにする <p>⑧直接には測定できない長さを、縮図を利用して求めてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> □具体的な場面から、簡単な平面図形として捉える力を身に付けるように <p>⑨測定値の表し方について知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> □理科の科学分野など、他教科とのつながりを意識した授業展開を目指していく <p>⑩相似な多角形の相似比と面積比には、どのような関係があるか調べてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> □相似比と面積比の関係を一般化することは、生徒自身で導けるかどうか考える展開にしている <p>⑪相似な立体の表面積の比や体積比と、相似比との関係を調べてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> □問題演習では、どのような考え方で導いたのかをノートに示すようにしていく <p>⑫具体的な場面で相似な立体の性質を活用してみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> □見取り図をかいて、丁寧に考えていくことに注意する 	<p>② 「読み解く力」を育成するための手立て</p> <p>●授業展開の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ○問題演習の場面で、解き方や答えの確認をする前に、全体で解き方のポイントや活用できる知識・技能について交流する場面を作る。その展開をすることで、「読み解く力」の「分析・整理」→「再構築」の細かいサイクルを促す。 例) 相似な三角形を記号等を使って表す場面では、辺や頂点に対応する図を書くことで当てはまる相似条件が見えてくる <p>③ ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆『日常生活や社会の現象』を数学的に表現した問題に変換するためのツールとしての活用方法 ・iPadのツールを使ってカメラで撮った写真に書き込みをすることで、実際の場面を平面図形として考える。例えば、人の視線は直線、地面や柱は平面や垂線、鏡に反射した光を対象な図形(同じ大きさの角)のように考えるなど ◆グループ学習の工夫 ・マトモジを活用して、グループ学習の効率化を図る。 	<p>「読み解く力」の育成に重点を置いた目指す児童生徒の姿</p> <p>A: 文章・グラフ・図から B: やりとりから</p> <p>① 文章や資料等から、目的に応じて情報を取り出す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学的な推論の過程から、三角形の相似条件などを用いて論理的に確かめ、数学的な推論の必要性や意味及び方法の理解を深めている <p>② 様々な情報を比較し、目的に応じて分析したり、整理したりする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の例題や図形の性質について、既習の図形の性質や関係を論理的に整理し、体系付け、組み立てている <p>③ 解釈した内容を縮略や知識と結び付けながら考えを深めたり、創造したりする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図形の性質が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明したり、統合的・発展的に捉えたりすることを通して、論理的に考察し表現している <p>④ やりとりを通して、相手の思いや意図を踏まえながら、自分の考えを確かめながら、創造したりする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①で得た他者の考えと自分の考えを比較し、ノートや振り返りで表現することで、知識・技能をより深めている ・日常生活や社会の事象などを、数学的な表現を用いて説明したり、論理的に表現したりしている ・数学の事象が実際の生活でどのように活用されているのかを考察している 		

④ 考えた手立てを適宜取り入れながら、単元の流れを構想する。

③ 想定した姿の実現のために具体的にどのような手立てを講じるかを記述する。(ICTの活用も含めて)

(4) 一単位時間で



単元構想が終わったら、次は一単位時間（本時）の授業の構想を立てよう。一単位時間の授業を構想するときも、単元を構想するときと同じように考えればいいよ。一単位時間の授業の中で、授業のゴールから、終末→展開→導入へとさかのぼった授業の構想を立てよう！それでは、シートを紹介するよ。



「授業ナビシート」を活用しよう

年間 単元 本時

単元全体の構想が固まれば、「授業ナビシート」を活用して、一単位時間ごとの計画を立てていきます。単元で育成したい資質・能力と本時のめあて、「読み解く力」の二つの側面と三つのプロセスを考慮して、授業の流れを組み立てます。子どもが主体となり、課題に取り組むための導入、必然性のあるペア・グループ学習、学びを深めるための交流や振り返り等、授業中の各場面における子どもの反応を予測し、必要な手立てを準備しておきます。このことで、指導者は子どもの具体的な学びの過程と目指す姿を念頭において授業に臨むことができます。

①本時に育成したい資質・能力、本時のめあてについて記述する。

②本時で想定している「読み解く力」を、高め、発揮している姿を記述する。

授業ナビシート 第4学年 算数科 「面積（広さの表し方を考えよう）」（大日本図書） 第6時／全11時

○本時に育成したい資質・能力

- 図形の構成の仕方に着目して複合図形の面積の求め方を考え、説明している。（思考力、判断力、表現力等）
- 複合図形の面積の求め方について多面的に考えようとしたり、よりよい求め方を考えようとしたりしている。（学びに向かう力、人間性等）

○本時のめあて

ふくざつな図形の面積は、どうすれば求められるかな。

○本時の展開（めあて、学習課題、学習活動、児童生徒の反応予測・思考の流れ、板書計画、ICTの活用方法等）

○二つの側面、三つのプロセスとの関係

二つの側面
A…主に文章や図、グラフから
B…主に他者とのやりとりから

三つのプロセス
①…発見・蓄積
②…分析・整理
③…再構築

[A①] 既習事項から正方形や長方形面積の求め方を用いて複合図形の面積が求められることを見いだしている。
[A②] 課題の図形とこれまで解決した図形を比べて共通点を見いだしている。
[B③] 課題の図形の面積の求め方を友達との話し合いを通して考えたりしている。
[A③] 簡潔・明瞭・的確の視点をもって複合図形の面積の求め方を説明している。

①本時の課題を確認する（2分）

・本時までを振り返り「陣取りゲーム」で面積を比べるために、求める必要のある形を確認する。

「陣取りゲーム」で取った面積を比べるために、求める必要のある形の面積を求めよう。

問題：どちらの図形の面積が、大きいかな？

この形なら、切ったら求められそうだな…

今日の図形は、カクカクしている。でも、この間の方法を使えばどうかな。

②めあてをもつ（2分）

ふくざつな図形の面積は、どうすれば求められるかな。

③見通しをもつ（3分）

これまでの学習で見出した面積の求め方の方法を共有し、それを生かすことで解決できることを確認する。

長方形、正方形に分けられるかな？

し字型の図形では、うめであとから引く方法もあったよな！

④自力・協働解決（20分）

・同じ課題に取り組む児童同士で必要に応じて交流を促す。

縦に切って考えてみよう。
式は、 $O \times \Delta + \square \times \star = \odot$

同じ考えの〇〇さんはどう説明しているのかな、聞いてみよう

なるほど！すごい！

図形を横に切って考えると…
ここまでは大丈夫？

ここに線を書き加えて、長方形からも考えることができるよ。

⑤中間交流

・それぞれの図形の面積を求めた方法を紹介し、よい説明の共有を促し、それぞれの考えの相違点・共通点を見つけ出す。

〇〇さんは、わたしと同じ面積を求めていたけど、正方形と長方形に分けて考えたよ。これだと計算が簡単だ！

〇〇さんは、式と図に番号をつけて説明していたよ。これだと説明が分かりやすい！！

どう分けたのか、見つけた図形（長方形・正方形）がかいてあったら伝わるかな。

これであっているかな？友だちはなんていうのかな。

⑥学習をまとめる（3分）

○ふくざつな図形の面積を求めるときも、長方形や正方形をもとにして考えると、面積を求めることができるな。

⑦適用問題に取り組む（7分）

・図形を提示し、陣取りゲームの勝敗をつける

⑧振り返りをする

説明するときは…

③本時の展開を記述する。 ※子どもの思考の流れを想定し、予測される反応を考え、具体的な手立てを講じることを特に意識する。（ICTの活用も含めて）

(5) ICTを効果的に活用して

1人1台端末を効果的に活用することができてなくて…。
どんなものがあるのかなあ。

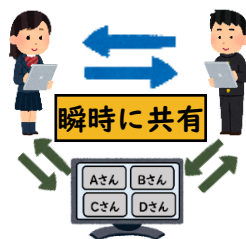


いつも同じ使い方しかしていないので、他にどんな効果的な方法があるか知りたいな。

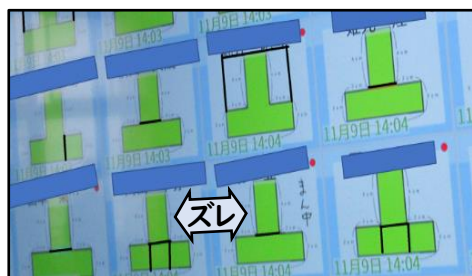


ICTを効果的に活用することで、よりよく「再構築」をすることができるよ。ICTの活用の事例を整理すると、3つのコツに分類できるよ。どんなものがあるのか見てみよう。

コツ① 瞬時に共有



学習活動を可視化することで、交流の必然性が生まれたり自分の学びがよく分かったりする



学級全体で意見を共有すると、他者と自分の考えのズレが明確になり、考えを確かめるために話し合う必然性が生まれる。

録画機能を活用し、パフォーマンスを可視化することで、自分の学びを客観的に捉えることができる。

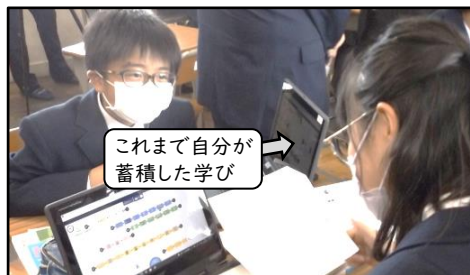


コツ② 学習活動の蓄積

学習活動を蓄積

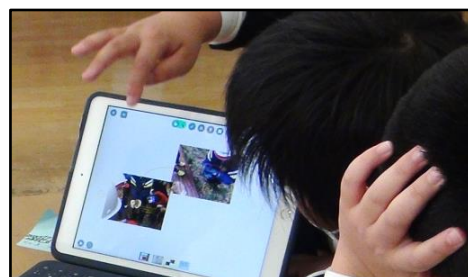


今日の知識を明日の学びの根拠とすることで、学びを積み重ねることができる



単元を通して自分が蓄積してきた知識を、考えの根拠として意見をまとめ、伝えることができる。

体験や経験を通して学んだ知識を積み重ねて、その学びを生かして新しい知識を構築していく。



コツ③

多様な情報を収集

多様な情報を収集

より多くの情報が手に入ることで、より正確な情報を取り出すことができる



教科書、ノート、資料集、1人1台端末など情報収集の手段が多いほど、より多くの情報から確かなものを手に入れることができる。



必要な情報がはっきりしていると、簡単に正確な情報を手に入れることができる。

証明に必要なひし形の定義を調べて確かめている

気を付けないと、ICTを使うことが目的となってしまうことがあるよ。
でも、まずは使ってみることだね！
「やってみないと、課題が見えない」
チャレンジなくして、成功なし…



「読み解く力」について、いろいろ分かったよ。単元を通して授業を考えていたけれど、年間を通して身に付けたい力を考えることも大切なのだと思ったよ。

素晴らしいね！そうやって自分から学ぶ姿勢は「子どもが主体」となる授業にもつながるよ。次は、実際の授業を見てみよう。



私が取り組んできた授業との共通点や相違点を見つけるといいのかな。実践事例から「発見・蓄積」して、「分析・整理」すると、自分の授業が「再構築」できそうだね。

第2章

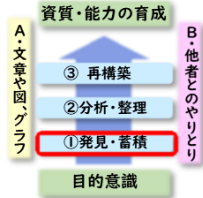
実践編



Ⅰ 「読み解く力」の育成に重点を置いた授業実践

(Ⅰ) 各プロセスに着目した実践事例

ここでは、どのように「読み解く力」の育成に重点を置いた授業実践を行ったか、①「発見・蓄積」②「分析・整理」③「再構築」の各プロセスに焦点を当てて、実践事例を紹介するよ。



① 「発見・蓄積」のプロセス

小学校 第4学年 総合的な学習の時間「しずくのゆくえ」

単元の目標

自然環境の特徴やよさ、それを支える人々の努力や工夫、自然と共存する素晴らしさについて理解し、自分に何ができるか考え、自分と地域の自然環境とのつながりを意識して行動や生活することができる。

単元の流れ（本時は第18時）

次	時	主な活動
1	①	・学校周辺の自然を探検し、発見したこと、気付いたことを全体で共有し課題を設定する。 ・自分たちの暮らしを支える水について考え、水資源の大切さに気付く。
	⑪	・余呉の川の上流と中流で水生生物についてフィールドワークを行い、水環境について調べる。 ・他地域(琵琶湖沿岸、淀川下流)と水環境を比較することを通して余呉の水環境の特徴を知り、自分に何ができるかを考える。
2	⑫	・山での仕事や資源を生かす取組をしている人の話を聞いたり、取組の体験をしたりする。
	⑰	・自分の見つけた「山のすてき」を1人1台端末にまとめて、これまでの学びを蓄積しておく。
3	本時 ⑱	・これまでの活動を振り返り、「余呉のすてきをもっと広げるためにどんなことをしていったらいいか」について考える。
	⑳	・「余呉のすてきを広げよう大作戦」を考えた後、友達と交流し合ったり、ゲストティーチャーから助言をいただいたりして考えを整理する。 ・地域の方に考えを伝える「しずくのゆくえ」展の方法を考える。 ・「しずくのゆくえ」展を開催し、その成果をまとめ、振り返る。

本時の目標

子どもが体験したことや学んだことを振り返ることにより、自分が感じた余呉のすてきに気付くことができる。



指導者は、目標達成のために、特に「発見・蓄積」のプロセスにおいて、次のように子どもが「読み解く力」を、高め、発揮している姿を想定したよ。

「発見・蓄積」のプロセスにおいて、「読み解く力」を、高め、発揮している子どもの姿

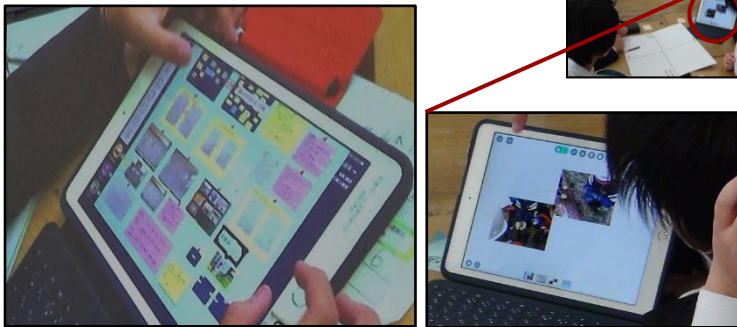
- これまでの体験活動や調べ学習を通して学んだことから目的に応じて必要な情報を取り出す姿。
- 友達との話合いで、友達が感じている余呉のすてきを聞いている姿。

その姿を実現するための手立て

体験等で収集した情報を言語化して蓄積しておく

本時では、これまでの取組を基にして、どのようなことを学んできたのかまとめたものを掲示し、いつでも振り返ることができるようにしました。

このような姿につながりました！



これまでの体験や経験を情報としてノートや端末、掲示物等に蓄積しておくことで、目的に応じた情報を適切に取り出すことができました。



これまでに体験したこと、学んだことを学級として蓄積してきた掲示物

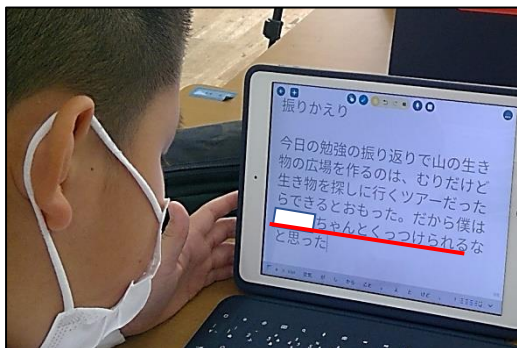
多様な情報を収集するために、体験や調べ学習などに十分取り組んでおこう。



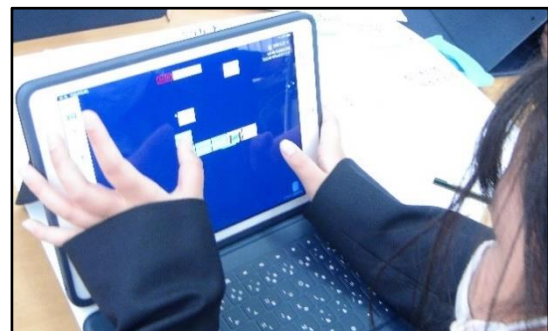
子どもが目的意識をもち、課題を自分事として捉えるようにする

課題を自分事として捉えることで、子どもが自分から必要な情報を手に入れようとするにつながります。

このような姿につながりました！



目的意識が明確となることで、学びの視点を意識して課題の解決に主体的に取り組むことができました。友達の意見も参考にして、よりよい「再構築」へとつなげることができました。



学級で蓄積しているデータから自分に必要な情報を手に入れている

子どもが目的意識をもち、「やってみたい」と思えるよう課題の設定を工夫すると、課題を自分事と捉えることができるよ。

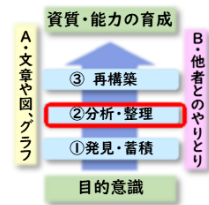


② 「分析・整理」のプロセス

中学校 第1学年 国語科

『竹取物語』のイチオシの人物を紹介しよう

教材名「蓬萊の玉の枝—『竹取物語』から」(光村図書)



単元の目標

- 音読に必要な文語のきまりを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。
- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにするができる。

単元の流れ (本時は第7時)

次	時	主な活動
事前		・「竹取物語」に関する様々な現代作家の現代語訳・漫画・絵本を用意し、学習までに物語にふれる。
1	①	・登場人物の紹介が単元のゴールだと理解し、登場人物を紹介する内容について検討する。 ・さまざまな古典作品や「竹取物語」の冒頭部分に触れ、古文の特徴をつかみ、これからの学習の見通しをもつ。
2	② ③ ④	・古文と現代の文章との違いを確かめ、古文の基本的な知識(仮名遣い・文末の言葉・言葉の意味の違い)について学習する。 ・全体のあらすじを知り、五人の貴公子からの求婚の場面について、複数の資料から情報を整理し、吟味する。
3	⑤ ⑥	・イチオシの登場人物について、複数の描写を基に、登場人物の心情の変化、人物の関係、人物像などについて解釈し、自分の考えをもつ。 ・イチオシの登場人物について、同じ考えの人と交流しながら、自分の考えを確かにする。
	本時 ⑦	・イチオシの登場人物について、同じ考えの人と交流し、紹介する内容を吟味して、再度考えをまとめる。
	⑧	・イチオシの人物を違う人物を選んだ人に紹介する。 ・単元での学習を振り返る。

本時の目標

他者との交流を通して、自分の選んだ登場人物に対する考えを確かなものにするができる。



指導者は、目標達成のために、特に「分析・整理」のプロセスにおいて、次のように子どもが「読み解く力」を、高め、発揮している姿を想定したよ。

「分析・整理」のプロセスにおいて、「読み解く力」を、高め、発揮している子どもの姿

- イチオシの登場人物の紹介に向け、複数の描写を比較・分析し、結び付けて登場人物の心情の変化、人物の関係、人物像などを解釈している姿。
- 交流の中で、他の人の考えとの共通点や相違点を整理している姿。

その姿を実現するための手立て

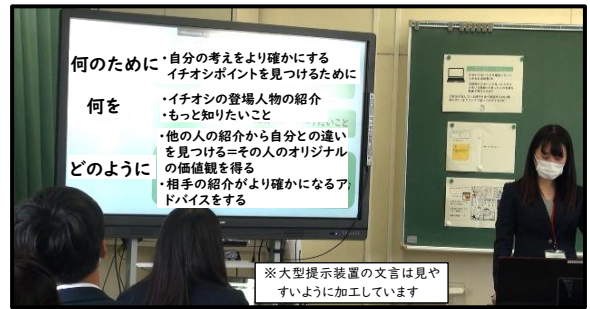
「何のために」「何を」「どのように」交流するのかを明確にする

本時では、イチオシの人物について、同じ考えの人と交流を行う前に、大型提示装置を用いて、他者とやりとりする視点や目的を明確にしました。



このような姿につながりました！

交流する視点や目的を明確にすることで、生徒同士に共通の認識が生まれ、「分析・整理」をしやすくなりました。他者の考えから必要な情報を捉えている姿や互いにアドバイスをし合う姿が見られました。



※大型提示装置の文言は見やすいように加工しています

子ども自身が明確な目的意識をもって、「分析・整理」を行うことが大切だよ。やりとりの視点や目的を明確にすることで、よりよく「再構築」をすることにつながるよ。



子どもが交流したい相手を、目的に応じて自分で選べるようにする

他者と交流する前に、1人1台端末から自分のイチオシの人物とその簡単な理由を全体で共有しました。また、それを大型提示装置に表示し、それぞれのイチオシの人物を把握し、交流したい相手を目的に応じて選び交流できるようにしました。



このような姿につながりました！

交流した相手を自分で選べるようにしたことで、より主体的に交流する姿が見られました。大型提示装置から、同じ考えの友達や、イチオシではないものの気になっている人物を選んでいる友達を見つけ、話を聞いていました。交流を終えると、友達から得た情報を基に自分の考えを「再構築」し、考えを確かめている姿が見られました。



同じ色=イチオシの人物が同じ
※拡大するとイチオシの理由が確認できる



ただ単に交流するのではなく、意図をもって交流することが大切だよ。大型提示装置等を使って、自分で目的に応じて交流相手を選べるようにすることで、主体的な交流ができるよ。

③ 「再構築」のプロセス

中学校 第2学年 外国語科

「Research Your Topic & Research and Presentation」

教材名「Unit 6 Research Your Topic & Research and Presentation」(東京書籍)



単元の目標

ALTに自分たちのことをよりよく知ってもらうために、身近なトピックに関する調査とその結果発表を読んで理解し、自分たちのクラスで人気のあるものやことについて、その結果や自分の考えをまとまりのある内容で話すことができる。

単元終末の言語活動に向け、帯活動としてSmall Talkを行い、比較表現等の定着を目指す。

単元の流れ(本時は第12時)

次	時	主な活動
1	①	<ul style="list-style-type: none"> ■単元の目標を理解する。(Listening, Reading) ■ジョシュと朝美の対話を読み取る。(Reading) ■トリビアクイズを出し合い、クイズ王を決める。(Speaking, Listening)
	⑦	<ul style="list-style-type: none"> ■ジョシュの発表を読み取る。(Reading) ■ジョシュの立場で、調査結果を伝える。(Reading, Speaking) ■フィードバックシートを読み取る。(Reading) ■海斗の立場で、フィードバックを与える。(Reading, Speaking)
2	⑧	<ul style="list-style-type: none"> ■発表の流れを確認し、英語でアンケートを作成する。 ■アンケートの実施、集計、資料づくりを行い、それらを基に伝えたい内容をまとめる。
	本時 ⑫	<ul style="list-style-type: none"> ■ALTの発表に向けて、調査結果や自分の考えをまとまりのある内容で友達に話すことができる。 ・グループで発表し合い(録画)、友達からフィードバックをもらう。 ・全体での中間指導を聞く。友達からのアドバイスや中間指導を受けて、録画した映像を見ながら、展開や内容、伝え方を修正する。 ・修正した部分を意識して、グループで再度発表(録画)し、録画した映像を個人で振り返る。
	⑬	<ul style="list-style-type: none"> ■ALTに調査結果や自分の考えをまとまりのある内容で話すことができる。

本時の目標

次時のALTへの発表に向けて、調査結果や自分の考えをまとまりのある内容で友達に話すことができる。



指導者は、目標達成のために、特に「再構築」のプロセスにおいて、次のように子どもが「読み解く力」を、高め、発揮している姿を想定したよ。

「再構築」のプロセスにおいて、「読み解く力」を、高め、発揮している子どもの姿

○次の授業で行うALTへの発表に向けて、友達からのアドバイスや中間指導を生かし、調査結果や自分の考えをまとまりのある内容で友達に話すことができる姿。

その姿を実現するための手立て

「発見・蓄積」「分析・整理」「再構築」を繰り返す学習展開

下図のように「発見・蓄積」「分析・整理」と「再構築」を繰り返す学習展開にしました。

「再構築」：グループ内で発表をし合う（録画）。

「発見・蓄積」「分析・整理」

：聞き手は、友達の発表のよい点に着目することで、そのよさを自分の発表に取り入れる。

「再構築」：伝えたい内容やその構成等について修正する。


「発見・蓄積」「分析・整理」

：録画した自分の発表と友達や指導者からのアドバイスを照らし合わせ、展開や内容、伝え方を吟味する。

「再構築」：聞き手にわかりやすい内容や構成等について修正する。

修正した部分を意識して再度、発表し合う（録画）。

録画した映像を見ながら、本時のめあてに沿って振り返り、次時への見通しをもつ。



一度の「再構築」で終わるのではなく、そこでの学びを基に「発見・蓄積」「分析・整理」「再構築」というサイクルをもう一度繰り返すことが、まさに「読み解く力」を、高め、発揮することにつながるよ。「再構築」を積み重ねることで、より深い学びが生まれ、教科等で目指す資質・能力の育成にもつながるんだ。

このような姿につながりました！



子どもの実態に応じた具体的な目的・場面、状況のある言語活動を設定し、子どもが明確な目的意識をもって言語活動に取り組めるようにすることが大切だよ。



一度目に録画した動画と見比べたり、グループ内でポイントに沿って再度アドバイスし合ったりすることで、粘り強く、自己調整を図りながら、発表の内容面と言語面において、質を高めることができました。

指導者の見取りとフィードバック

机間指導での子どもの観察はもちろんのこと、子どもの発表動画や、ワークシートの振り返りの記述等から、子どもの学習状況を的確に見取りました。見取ったことを踏まえて、個に応じたフィードバックを行いました。



このような姿につながりました！

子どもは、単元で何をどのように学習すればよいか、自分の目標をもち、その達成に向け主体的に学ぶことができました。さらに自己の学びを振り返り、自己調整をしながら、よりよく「再構築」をする姿につながりました。

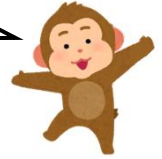


個々の子どもがよりよく「再構築」をするためには、子どもがどのように学習の筋道を立てて、単元のゴールへ向けて進んでいるかを把握することが大切だよ。指導者は、知識を教えるだけでなく、どのように学習を進めていけばよいか個に応じたフィードバックすることが、子どもの主体的な学びにつながるんだ。

(2) 各シートを活用した授業づくりの実践事例

小学校 第4学年 算数科「面積」 教材名「広さの表し方を考えよう」(大日本図書)

3つのシートを活用して、小学校第4学年算数科を担当する指導者が、①年間を通して、②単元を通して、③一単位時間で、どのように授業を構想したかを紹介するよ。



① 年間を通して

『読み解く力』マネジメントシート」を活用した実践

年間 単元 本時

『読み解く力』マネジメントシート」を活用し、実践を省察して課題を明確にし、また次の実践へ生かすというPDCAサイクルを確立することで、子どもが主体となる授業づくりを行いました。

①. 学校教育目標、校内研究主題に加え、児童の実態の「課題解決に生かすことが苦手」「主体的に学ぶ姿勢は、やや弱い」ことを受けて、**児童が主体となる授業を指導の重点に設定しました。**

⑤. 学びや実践の省察から成果と課題を整理し、課題を解決するための手立てを講じました。このように PDCA サイクルを回すことで**成果と課題が明確となり、授業の改善へとつながりました。**

『読み解く力』マネジメントシート(小学校)		(担当学年・学期) ○○小学校 4年 (氏名) ○○ ○○	
★全ての児童が「読み解く力」を、高め、発揮し、学びを実感できる授業づくりに向けて			
学校教育目標	「わたしひとまち大好き○○子」の育成	児童の実態	基礎的・基本的な方は、身に付いている児童が多いが、それを課題解決に生かすことが苦手。指示されたことや決められたことは、しっかりできる。しかし、主体的に学ぶ姿勢は、やや弱い。自分の考えや思いがあっても、それをうまく表現し伝えられることが苦手
校内研究主題	情報を比較し、関連付けて整理できる子どもの育成	指導の重点	児童が主体となる授業づくりを行う。 主体的・協働的な学びを行うことで、「学ぶ力」を育てる
月	①教科 ②単元 ③育成したい資質・能力 ④重点となる指導事項	①今後の実践で取り組みたいこと ②学校に広げたいこと ③取り組みの視点	①「個別最適な学び」の視点を踏まえた授業作り ・子どもが学びの必然性を感じ「自覚意識」をもたせる授業づくり ②・子ども主体の授業づくり ・ゴールから逆算した授業づくり ③・「わかったつもり」から確実に「できた」につなげる授業づくり
4月	《4～7月の授業実践》 ①算数科 ②角度 ③角の大きさについて、既習の測定の考え方をもとにして、方法を考えることができる	①今後の実践で取り組みたいこと ②学校に広げたいこと ③取り組みの視点	①「個別最適な学び」の視点を踏まえた授業作り ・子どもが学びの必然性を感じ「自覚意識」をもたせる授業づくり ②・子ども主体の授業づくり ・ゴールから逆算した授業づくり ③・「わかったつもり」から確実に「できた」につなげる授業づくり
5月	④ア(ア)イ イ(ア)	①今後の実践で取り組みたいこと ②学校に広げたいこと ③取り組みの視点	①今後の実践で取り組みたいこと ②学校に広げたいこと ③取り組みの視点
6月	④ア(ア)イ イ(ア)	①今後の実践で取り組みたいこと ②学校に広げたいこと ③取り組みの視点	①今後の実践で取り組みたいこと ②学校に広げたいこと ③取り組みの視点
7月	④ア(ア)イ イ(ア)	①今後の実践で取り組みたいこと ②学校に広げたいこと ③取り組みの視点	①今後の実践で取り組みたいこと ②学校に広げたいこと ③取り組みの視点
8月	《8～12月の授業実践》 ①算数科 ②面積 ③広さの表し方 長方形と正方形の面積 いろいろな面積の単位	①今後の実践で取り組みたいこと ②学校に広げたいこと ③取り組みの視点	①今後の実践で取り組みたいこと ②学校に広げたいこと ③取り組みの視点
9月	④A(6) A(イ)イ(ア) B(4)	①今後の実践で取り組みたいこと ②学校に広げたいこと ③取り組みの視点	①今後の実践で取り組みたいこと ②学校に広げたいこと ③取り組みの視点
10月	A(ア)イ(ア)	①今後の実践で取り組みたいこと ②学校に広げたいこと ③取り組みの視点	①今後の実践で取り組みたいこと ②学校に広げたいこと ③取り組みの視点
11月		①今後の実践で取り組みたいこと ②学校に広げたいこと ③取り組みの視点	①今後の実践で取り組みたいこと ②学校に広げたいこと ③取り組みの視点
12月		①今後の実践で取り組みたいこと ②学校に広げたいこと ③取り組みの視点	①今後の実践で取り組みたいこと ②学校に広げたいこと ③取り組みの視点

②. 単元の構成内容が似た教材を選び、1学期の実践の課題を2学期の実践で解決できるようにしました。

③. 日々の授業でも学び合いやICTの活用等を意識して授業実践を行いました。

④. 自分が学んだことや実践を省察することで学びを蓄積して、次第に子どもが主体であるという指導の重点に迫ることができました。



シートを活用した指導者の感想
シートを活用したことで、実践を長期的に見通すことができました。2学期の授業に向けて、1学期の実践はどこに焦点を当てるかを考え、また実践から出た成果や課題を一つずつ解決して、2学期の授業に向かうことができました。

② 単元を通して

「単元構想シート」を活用した実践

年間
単元
本時

単元の始まりでは、学習指導要領等を参考にして単元目標を設定しました。子どもが目標を達成するために、「読み解く力」を、高め、発揮している姿の実現に向けた手立てや工夫を考え、どのような単元構成とするとよいのか考えました。

①. 学習指導要領等を参考にして、当該単元の目標を記述しました。その単元目標を達成するために、今回は「陣取りゲーム」を取り入れることにしました。



②. 「読み解く力」を、高め、発揮するために、既習の知識(四角形、長方形、正方形の定義と性質)を確認し、各プロセスで目指す子どもの姿を具体的に想定しました。

単元構想シート		〇〇小学校 第4学年 算数科 単元名「面積(広さの表し方を考えよう)」		全11時間
<p>単元目標 (育成したい資質・能力)</p> <p>面積の単位「cm」、「m」、「km」、「a」とその関係や、長方形と正方形の求積公式について理解し、公式を用いて面積を求めることができる。</p> <p>単位の考えを用いたり、図形の構成要素に着目したりして、面積の表し方や複合図形の面積の求め方、単位の関係について考え、説明することができる。</p> <p>面積を数値化して表す良さに気づき、生活や学習に生かそうとしたり、複合図形の面積の求め方について、多面的に考え、より良い方法を追求しようとしていたりしている。</p>	<p>二つの単元</p> <p>A…主に文章や図、グラフから読み解き理解する力</p> <p>B…主に他者とのやりとりから読み解き理解する力</p>	<p>三つのプロセス</p> <p>見・蓄積 必要な情報を確かに取り出す 析・整理 情報を比較し、関連付けて整理する 構築 自分なりに解決し、知識を再構築する</p>	<p>単元の流れ</p> <p>〇主な学習活動 □指導上の留意点</p> <p>①「面積」について興味・関心をもつ</p> <p>〇「陣取りゲーム」を行い、広さの比べ方を考え、本単元の学習の見通しをもつ。</p> <p>□児童に目的意識をもたせるために、どちらが広いのかゲームの結果を「はつきりさせたい」という必要性をもたせる。</p> <p>①広さの比べ方を考え、1辺が1cmの正方形のいくつ分かで面積を数値化する。</p> <p>□マスの中で比べる方法に付き、違うグループ同士でも陣取りの広さを比べることができないうえ。</p> <p>□自分の陣地を切って比べる方法もあるが、マスの数を数える方法なら人数でも簡単に比べられることに気づき、任意単位による比較のよさを感じられるようにする。</p> <p>②「面積」の用語とその意味を理解し、単位「cm」を知る。</p> <p>□広さのことを面積ということ、面積の単位「cm」を知り、面積を「cm」の単位で表す。</p> <p>□変形をすることで、必要な長さがどこかを考える。</p> <p>③長方形や正方形の面積を計算で求める方法を考える。</p> <p>□長方形や正方形の面積の求め方を理解し、面積を求め、公式をまとめる。</p> <p>□面積を求めるために、必要な長さがどこかを考える。</p> <p>□図形が不安定な状態でもかかっている場合もあることに気づき、図形に対する多様な見方を身に付けられるようにする。</p> <p>④面積と辺の長さの関係について調べる。</p> <p>□周りの長さでは、面積が決まらないことを理解できるようにする。また、長方形の面積と一方の辺の長さから、もう一方の辺の長さを求める方法を考える。</p> <p>□周りの長さが同じなのに、面積が異なることが理解できない児童には、ひもの長さを一定にして形を変形し、描かれた部分の面積が減ることを理解できるようにする。</p> <p>⑤複合図形の面積の求め方を考える【本時】</p> <p>〇図形の構成の仕方に着目して複合図形の面積の求め方を考え、説明させる。</p> <p>〇広いところの面積の表し方を考える。</p> <p>□面積の単位「m」を知り、面積をm²で表す。</p> <p>□1mの中には、何人ぐらいのことができるとか体感する。</p> <p>⑥1m²と1cm²の関係調べる。</p> <p>□身の回りにある物の面積を予想し、調べる。</p> <p>□空や床の広さのような大きな面積の表し方を考える。</p> <p>□1kmはどれぐらいの広さなのか学区の地図から調べ、量感をつかませる。</p> <p>⑦いろいろな面積の表し方を調べる。</p> <p>□「a」、「ha」を知り、1辺の長さに着目して整理する。</p> <p>⑧基本的な学習内容を理解しているか確認し、習熟し</p>	<p>「読み解く力」の育成に重点を置いた目指す児童生徒の姿</p> <p>A:文章・グラフ・図から</p> <p>B:やりとりから</p> <p>①既習事項のの違いや疑問などを見つけ出し、課題を創り出している。</p> <p>②様々な情報を比較し、目的に応じて分析したり、整理したりする</p> <p>③いくつかの考えや方法から、共通点や相違点を見つけ出し、面積の求め方を考えている。</p> <p>④図形を構成する要素に着目し、より簡潔・明瞭・確かな表現で図形の面積の求め方を考察している。</p> <p>⑤相手の考えを聞いた後、やりとりを通して、友達の考えを比較・検討し簡潔・明瞭・確かな説明となっているかを吟味している。</p> <p>⑥やりとりを通して、相手の思いや意図を踏まえながら、自分の考えを確かなものにした後、創造したりする</p> <p>⑦話し合いや友達の考えを試し場面を通して、友達の考え方や説明のよさを、自分の説明に生かしている。</p>
<p>①「陣取りゲーム」を行い、広さの比べ方を考え、本単元の学習の見通しをもつ。</p> <p>□児童に目的意識をもたせるために、どちらが広いのかゲームの結果を「はつきりさせたい」という必要性をもたせる。</p> <p>①広さの比べ方を考え、1辺が1cmの正方形のいくつ分かで面積を数値化する。</p> <p>□マスの中で比べる方法に付き、違うグループ同士でも陣取りの広さを比べることができないうえ。</p> <p>□自分の陣地を切って比べる方法もあるが、マスの数を数える方法なら人数でも簡単に比べられることに気づき、任意単位による比較のよさを感じられるようにする。</p> <p>②「面積」の用語とその意味を理解し、単位「cm」を知る。</p> <p>□広さのことを面積ということ、面積の単位「cm」を知り、面積を「cm」の単位で表す。</p> <p>□変形をすることで、必要な長さがどこかを考える。</p> <p>③長方形や正方形の面積を計算で求める方法を考える。</p> <p>□長方形や正方形の面積の求め方を理解し、面積を求め、公式をまとめる。</p> <p>□面積を求めるために、必要な長さがどこかを考える。</p> <p>□図形が不安定な状態でもかかっている場合もあることに気づき、図形に対する多様な見方を身に付けられるようにする。</p> <p>④面積と辺の長さの関係について調べる。</p> <p>□周りの長さでは、面積が決まらないことを理解できるようにする。また、長方形の面積と一方の辺の長さから、もう一方の辺の長さを求める方法を考える。</p> <p>□周りの長さが同じなのに、面積が異なることが理解できない児童には、ひもの長さを一定にして形を変形し、描かれた部分の面積が減ることを理解できるようにする。</p> <p>⑤複合図形の面積の求め方を考える【本時】</p> <p>〇図形の構成の仕方に着目して複合図形の面積の求め方を考え、説明させる。</p> <p>〇広いところの面積の表し方を考える。</p> <p>□面積の単位「m」を知り、面積をm²で表す。</p> <p>□1mの中には、何人ぐらいのことができるとか体感する。</p> <p>⑥1m²と1cm²の関係調べる。</p> <p>□身の回りにある物の面積を予想し、調べる。</p> <p>□空や床の広さのような大きな面積の表し方を考える。</p> <p>□1kmはどれぐらいの広さなのか学区の地図から調べ、量感をつかませる。</p> <p>⑦いろいろな面積の表し方を調べる。</p> <p>□「a」、「ha」を知り、1辺の長さに着目して整理する。</p> <p>⑧基本的な学習内容を理解しているか確認し、習熟し</p>	<p>〇「読み解く力」を育成するための手立て</p> <p>①「目的意識をもつための工夫」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「陣取りゲーム」をペアで行い、陣が広いのはどちらかを「はつきりさせたい」という思いを引き出し、単元における数学的活動への必然性や目的意識をもてるようにする。 <p>②「分析・整理」するための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの際には、自分の考えた方法と友達の考えた方法の共通点や相違点に注目し、自分の考えを確かめたり、深めたりできるようにする。 ・友達の考えを読み取りたり筋道を立てた説明となっているか評価したりする活動を取り入れる。そうすることで、説明するに当たって必要な情報が入っているかという観点をもって臨むことができ、自身の考えを応じたり深めたりすることにつながる。 <p>③「再構築」するための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より良い考えや方法を生かす場面を設定することでよさを実感し、自分のものとする。 ・再構築したものを自在に活用する「適用問題」に取り組み、多面的に考えを広げようとする。 ・学習したことを図や文章・図・文章で書き、学びを積み上げることで理解を深める。 ・「まとめ」「適用問題」「ふりかえり」を通して、「わかった(かも)」「確実にできる」につなげる。 <p>④ICTの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の話し合いに必然性をもたせる活用 ・ロケットを活用し、大型モニターに個々の取り組み状況を提示する。児童は必要とする情報をもった児童を選び、交流することによって目的意識を確かなにした交流をする。 ・考えの手がかりとしての活用 ・既習内容やこれまでの学びを端に残しておくことで、必要な時に必要な情報を取り出すことにより、考えをもつ手がかりとする。 ・「わかった」から「できる」につなげる ・再構築において、児童が「わかった」を「できる」とするために、適用問題の取り組み状況を共有する。 			

④. 単元の流れがつながるように構成をして、単元の中で積み重ねた知識を活用する6時間目を「再構築」のプロセスを重視した授業としました。学習を進めることで見えた子どもの姿を基に、複合図形を当初の1時間から2時間扱いにするなど適宜修正を行いました。

③. 「陣取りゲーム」における図やルールの工夫、学び合いの掲示物、ICT活用における支援ソフトの準備等、何のためにどのような手立てを講じるかを整理しました。



指導者の手立て(掲示物)



シートを活用した指導者の感想

単元を構想する中で、本時が「読み解く力」のどのポイントを重視した授業であるかや、そのためにどこでどのような力を育成するかの見通しをもつことができました。

③ 一単位時間で



一単位時間の授業の中で、授業のゴールから、終末→展開→導入へとさかのぼった授業の構想をたてよう！

「授業ナビシート」を活用した実践

年間
単元
本時

単元を通した課題として、「陣取りゲーム」の勝敗を明確にすることを設定し、その解決に向けて一単位時間の計画を立てました。その際、本時で目指す資質・能力の育成につながる目的意識をもつための導入、課題解決における目的の明確な交流を意識しました。

①. 本時で育成したい資質・能力につながるように、本時のめあてを「求められるかな」として、説明をする必然性を生みだしました。

②. 本時で想定している「読み解く力」を、高め、発揮している姿を踏まえて、子どもが既習事項を取り出すことができるように教室掲示を工夫しました。



教室掲示の工夫

授業ナビシート 第4学年 算数科 「面積（広さの表し方を考えよう）」（大日本図書） 第6時／全11時

○本時に育成したい資質・能力
・図形の構成の仕方に着目して複合図形の面積の求め方を考え、説明している。（思考力、判断力、表現力等）
・複合図形の面積の求め方について多面的に考えようとしていたり、よりよい求め方を考えようとしていたりしている。（学びに向かう力、人間性等）

○本時のめあて
ふくざつな図形の面積は、どうすれば求められるかな。

○本時の展開（めあて、学習課題、学習活動、児童生徒の反応予測・思考の流れ、板書計画、ICTの活用方法等）

○この側面、三つのプロセスとの関係
二つの側面
A 先に文章や図、グラフから
B 他者とのやりとりから
①…発見・蓄積
②…分析・整理
③…再構築

[A①] 算算事項から正方形や長方形面積の求め方を用いて複合図形の面積が求められることを見いだしている。
[A②] 課題の図形とこれまでに解決した図形を比べて共通点を見いだしている。
[B③] 課題の図形の面積の求め方を友達との表現と自身の表現と比べたり友達との話し合いを通して考えたりしている。
[A③] 簡潔・明確・的確の視点をもって複合図形の面積の求め方を説明している。

①本時の課題を確認する（2分）
・本時までを振り返り「陣取りゲーム」で面積を比べるために、求める必要のある形を確認する。
「陣取りゲーム」で取った面積を比べるために、求める必要のある形の面積を求めよう。
問題：どちらの図形の面積が、大きいかな？
この形なら、切ったら求められそうだな…
今日の図形は、カクカクしている。でも、この間の方法を使えばとけそうだな。
④自力・協働解決（20分）
・同じ課題に取り組む児童同士で必要に応じて交流を促す。
縦に切って考えてみよう。
式は、 $\bigcirc \times \Delta + \square \times \star = \bigoplus$
同じ考えの $\bigcirc\bigcirc$ さんはどう説明しているのか、聞いてみよう
なるほど！すごい！
図形を横に切って考えると…
ここまでは大丈夫？
ここに線を書き加えて、長方形からも考えることができるよ。
⑤中間交流
・それぞれの図形の面積を求めた方法を紹介し、よい説明の共有を図り、それぞれの考えの相違点・共通点を見つけ出す。
 $\bigcirc\bigcirc$ さんは、わたしと同じ面積を求めていたけど、正方形と長方形に分けて考えたよ。これだと計算が簡単だ！
 $\bigcirc\bigcirc$ さんは、式と図に番号をつけて説明していたよ。これだと説明が分かりやすい！
どう分けたのか、見つけた図形（長方形、正方形）が違ってたら伝わるかな。
これであっているかな？友だちはなんていうのかな。
⑥学習をまとめる（3分）
○ふくざつな図形の面積を求めるときも、長方形や正方形をもとにして考えると、面積を求めることができるかな。
⑦適用問題に取り組む（7分）
・図形を提示し、陣取りゲームの勝敗をつける
⑧振り返りを促す
観察するとき…

③. 本時の展開として、「陣取りゲーム」の勝敗を決めたいという子どもの姿から、目的意識を引き出し、②「どうすれば求められるかな」と問うことで、説明をする必然性が生まれ、交流する目的が明確になりました。③見通しをもつ場面や⑥学習をまとめる場面では、子どもがどのように発言すれば学習の見通しをもてたといえるか、資質・能力の育成へとつながったといえるかを子どもの言葉で想定しました。⑦適用問題に取り組む場面では、本時で育成した資質・能力が発揮できる課題を用意し、子どもが「できた」と感じて本時を終えることができるようにしました。

シートを活用した指導者の感想



子どもの言葉で授業を想定することで、授業での子どもの反応によって授業展開を修正することができました。指導者が授業を適切にマネジメントすることで、子どもが資質・能力を確かに身に付けることができるようになりました。

(3) ICTを効果的に活用した実践事例

小学校 第5学年 理科「流れる水のはたらきと土地の変化」
教材名「流れる水と土地」(日本文教出版)


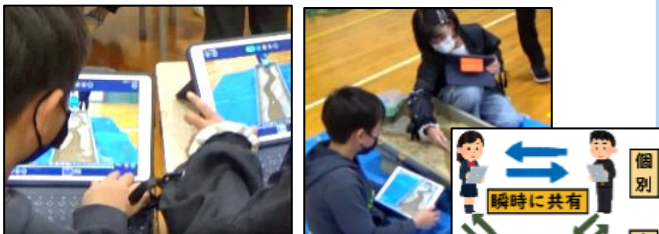
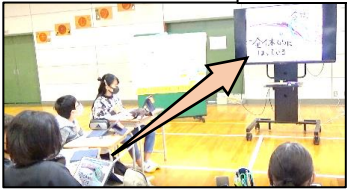
本時の目標

水量を増やしたり斜面の傾きを大きくしたりすると、流れる水のはたらきはどのように変化するの
かを実験結果を基に考察し、説明するなどして課題解決することができる。

本時において、「読み解く力」を、高め、発揮している子どもの姿

- 導き出した結論を基に、安曇川と関連付けて振り返りをしている姿。(A③)
- 学級全体での合意形成を目的とした話し合いを通して、問題に対する結論を導き出している姿。(B③)

本時(第7時)の展開

主な学習活動	指導上の留意点(○)・評価規準(□)・ICTの活用(☆)
<p>1. 解決すべき問題と実験方法を確認する。</p> <p>問題A 水量が増えると流れる水のはたらきはどのように変化するのか。 問題B 斜面の傾きが大きくなると、流れる水のはたらきはどのように変化するのか。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">水量や傾きを変えたときの流れる水のはたらきを調べよう</p>	<p>○確認する際には、これまでの学習をまとめた掲示物を活用する。</p> 
<p>2. ペアで実験をする。</p> 	<p>☆実験の様子を動画で撮影する。その際、子どもがタブレットを持って撮影するのではなく、タブレットを固定(設置)して撮影することで、まずは自分の目で実験を確認できるようにする。</p>
<p>3. 動画で記録した実験の様子を基にペアで考察し、その内容を個人でワークシートにまとめる。</p> 	<p>☆侵食・運搬・堆積のそれぞれの観点で繰り返し動画を見返しながら考察するよう促す。</p> <p>☆気付いたことや分かったことは、ペアで端末上の写真に記入する。</p> <p>○ペアで考察した後、その内容を一人ひとりがワークシートにまとめることで、自分の考えを整理するようにする。</p> <p>□得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。(思考・判断・表現)</p>
<p>4. ペアで考察したことを全体で共有し、結論を導き出す。</p>  <p>5. 安曇川と関連付けた振り返りを記入する。</p>	<p>☆各ペアの考察を記録した写真を大画面に映し、学級全体で共有しながら話し合うようにする。</p> <p>○各ペアの共通した意見をまとめていくことで、全員が納得した結論を導き出すようにする。異なる意見が出た場合は、動画を学級全体で確認し、実験方法等に誤りがなかったかどうかを確かめるようにする。</p>

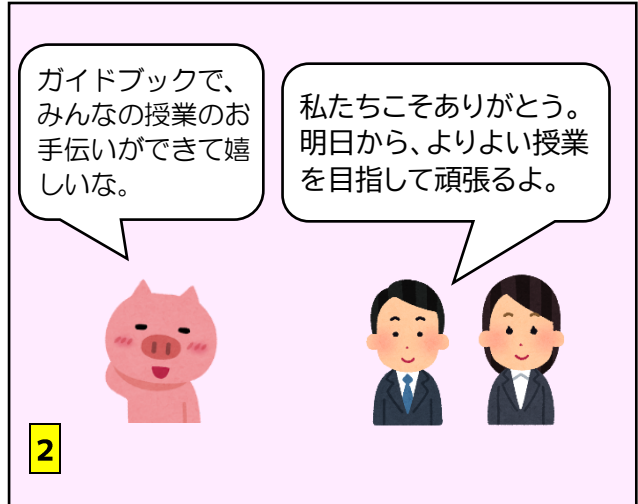
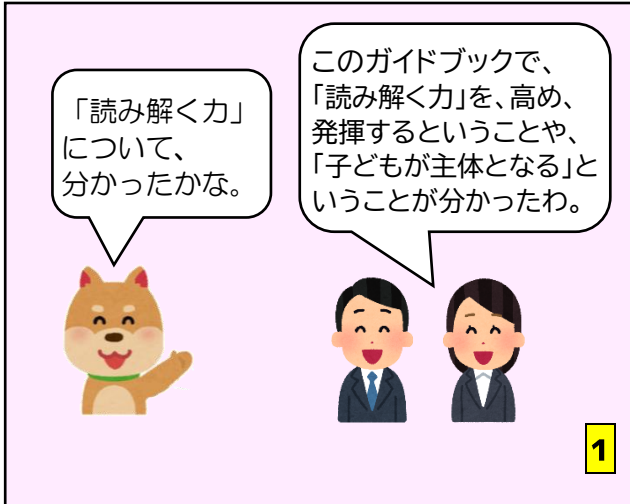
本時での ICT 活用の効果

- 動画や写真を根拠として、事実を基に自分の考えをまとめることができました。
- 動画で結果を検証することで、話し合いでの合意形成を図ることができ、よりよい「再構築」へとつながりました。

この授業から見える ICT 活用

- 動画を繰り返し見返すことで、理科の見方・考え方を働かせながら「分析・整理」の質を高めることができます。
- 刻一刻と状況が変化する実験などは、動画を撮影して、実験結果を明確にすることで、考察を行うことが容易になります。

エピローグ



資料



資料1～4とその活用例はここからダウンロードすることもできるよ！



<https://www.shiga-ec.ed.jp/www/contents/1641864261264/index.html>

滋賀県総合教育センター
令和3年度「読み解く力」
プロジェクト研究成果物



その他、「読み解く力」授業づくりに関する研究内容・実践事例はこちらへ。



<https://www.shiga-ec.ed.jp/www/contents/1606442352025/index.html>

滋賀県総合教育センター
「読み解く力」授業づくり関連情報

「読み解く力」マネジメントシート

★全ての児童生徒が「読み解く力」を、高め、発揮し、学びを実感できる授業づくりに向けて



(担当学年・学級)

(氏名)

学校教育目標	P
校内研究主題	P
児童生徒の実態	P
指導の重点	P

月	「読み解く力」の育成を図る授業について	「読み解く力」を、高め、発揮する姿の想定	D	自身の授業実践を通して	次の実践に向けた改善点	月	
4月	<p>P</p> <p>①教科 ②単元 ③育成したい資質・能力 ④重点となる指導事項</p> <p>《4～7月の授業実践》</p>	<p>P</p> <p>児童生徒が「再構築」をする姿を想定し、その姿の実現に向けて、何を、どのように「発見・蓄積」「分析・整理」するのか</p> <p>《4～7月の授業実践》</p>	<p>単元構想シート、授業ナビシート、学習指導案等を基に授業実践を行う</p>	<p>C</p> <p>「読み解く力」を、高め、発揮する授業づくりについて学んだことや見いだした視点</p>	<p>C</p> <p>「読み解く力」を、高め、発揮する授業づくりとして有効な単元構成や学習展開の工夫、手立て</p>	<p>A</p> <p>①今後の実践で取り組みたいこと ②学校に広げたいこと ③他教科でも取り組みたい点</p>	4月
5月							5月
6月							6月
7月							7月
8月							8月
9月							9月
10月							10月
11月							11月
12月							12月

「読み解く力」マネジメントシート様式（裏面）

「読み解く力」マネジメントシート

★全ての児童生徒が「読み解く力」を、高め、発揮し、学びを実感できる授業づくりに向けて



(担当学年・学級)

(氏名)

月	「読み解く力」の育成を図る授業について ①教科 ②単元 ③育成したい資質・能力 ④重点となる指導事項	「読み解く力」を、高め、発揮する姿の想定 児童生徒が「単構築」をずる姿を 想定し、その姿の実現に向けて、 何を、どのように「発見・蓄積」 「分析・整理」するのか	D 校内研修や授業参観を通して 「読み解く力」を、高め、発揮する 授業づくりについて学んだことや 見いだした視点	C 自身の授業実践を通して 「読み解く力」を、高め、発揮する 授業づくりとして有効な単元構成や 学習展開の工夫、手立て	A 次の実践に向けた改善点 ①今後の実践で取り組みたいこと ②学校に広げたいこと ③他教科でも取り組める視点	月
1月	《1～3月の授業実践》	《1～3月の授業実践》	授業実践を行う			1月
2月						
3月						
<p>1年間を振り返って(個人)</p> <p>① 1年間を通して、児童生徒に身に付いた「読み解く力」 ② ①を精査にして今後大事にしたい授業づくりの視点、有効な単元構成や学習展開の工夫、手立て ③ 未だ課題と考えられる児童生徒の実態 ④ ③の実態を踏まえて、次年度に取り組むこと</p> <p>次年度へ向けて(学校全体)</p> <p>① 児童生徒の実態や今年度の成果と課題から、学校全体で次年度に取り組んだ方がよいと考えること ② 教育課程の編成において、カリキュラムマネジメントの観点からの検討課題と考えること</p>						



3 授業ナビシート様式

授業ナビシート _____ 学校 第 _____ 学年 _____ 科 単元名「 _____ 」 第 _____ 時 / 全 _____ 時

○本時に育成したい資質・能力

○二つの側面、三つのプロセスとの関係

二つの側面

- A…主に文章や図、グラフから読み解き理解する力
- B…主に他者とのやりとりから読み解き理解する力

三つのプロセス

- ①…発見・蓄積 必要な情報を確かに取り出す
- ②…分析・整理 情報を比較し、関連付けて整理する
- ③…再構築 自分なりに解決し、知識を再構築する

○本時のめあて

○本時の展開（めあて、学習課題、学習活動、児童生徒の反応予測・思考の流れ、板書計画、ICTの活用方法等）

4 「読み解く力」学習指導案様式

第〇学年〇〇科学習指導案

日時：令和〇年〇月〇日（〇）〇校時

学級：第〇学年〇組〇〇名

場所：〇年〇組教室

授業者：〇〇 〇〇

1 単元名（題材名）

2 単元（題材）の目標

3 単元について

(1) 児童(生徒)の実態

(2) 教材について

(3) 指導について

(4) 児童(生徒)が「読み解く力」を、高め、発揮している姿とそのための手立て

【「読み解く力」の二つの側面】	【「読み解く力」の三つのプロセス】
A…主に文章や図、グラフから読み解き理解する力	①…発見・蓄積：必要な情報を確かに取り出す
B…主に他者とのやりとりから読み解き理解する力	②…分析・整理：情報を比較し、関連付けて整理する
	③…再構築：自分なりに解決し、知識を再構築する

4 単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

5 指導と評価の計画（全〇時間）

※実線は、「読み解く力」のAの側面、波線は、Bの側面に関わる留意点や評価規準

次	時	主な学習活動	指導上の留意点・ICTの活用	評価規準・評価方法
一	1			
	2			
二				

6 本時の目標（本時：〇/〇時間目）

右ページに記述例を示しています

7 本時の評価規準

8 本時の展開 ※実線は、「読み解く力」のAの側面、波線は、Bの側面に関わる留意点や評価規準

	主な学習活動等	指導上の留意点(・) ICTの活用(☆) 評価規準(□)

9 授業参観の視点

(1)

(2)

右ページに記述例を示しています

《「読み解く力」学習指導案記述例》

※小学校第2学年国語科の授業実践を例として記述しています。なお、学習指導案の詳細については「読み解く力」授業づくり関連情報に記載しています。



5 指導と評価の計画 ※実線は、「読み解く力」のAの側面、波線は、Bの側面に関わる留意点や評価規準

次 時	主な学習活動	指導上の留意点・ICTの活用	評価規準・評価方法
二 7 本時	○並行読書のお話の大好きなところについて、ペープサートを使いながら想像を広げて読み、付け足しの一言を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・付け足しの言葉を添えて何度も音読し、「もう付け足しの言葉は大丈夫」と思ったら書き出すように伝える。 ・隣の人に聞こえるくらいの明確な発声を意識できるようにする。 ・<u>自分で考えることとペアと交流することを繰り返す中で、想像を広げていけるようにする。</u> ・吹き出し型の付箋に書くことが難しい児童は、友達と交流する中でヒントになったことを音読し、最後に付け足しの一言が付箋に書けたらよいとする。 ・特に大好きなところを一つに絞ることで、自分の思いを明確にできるようにする。 	[思考・判断・表現] 吹き出し ・吹き出しの内容。
8	○『お手紙』でペープサートを使って音読している姿をタブレットで撮影し、自分の音読の仕方確かめたり、工夫したりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の動画を見て、ペープサートの様子を確かめる。 ・<u>動画を見てペアと交流することで、さらに想像を広げたり、工夫したりできるようにする。</u> 	[主体的に学習に取り組む態度] 観察 ・動画を見て、さらに工夫して音読している姿。

8 本時の展開 ※実線は、「読み解く力」のAの側面、波線は、Bの側面に関わる留意点や評価規準

	主な学習活動等	指導上の留意点(・) ICTの活用(☆) 評価規準(□)
3分	1. 本時のめあてをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生に向けてペープサートをするというゴールを再度確認し、ゴールに向けてペープサートをよりよいものにしたいという気持ちが膨らむようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> 大すきなところをもっといっぱいそうぞうして読んで、つけ足しの一言を考えよう。 </div>		
4分	2. 前時を振り返り、付け足しの一言を考えるためのポイントを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学びを思い出し、今日の学習に生かせるようにする。 ☆前時の活動の様子をICTを使って確認する。
20分	3. ペープサートを使いながら、何度も音読し、付け足しの一言を考え、付箋に書く。 ①好きなところを声に出して読む。 ②ペープサートを動かしながら、会話を口頭で付け足してみる。(1回だけでなく何度も。隣の人に聞こえる声で) ③同じ話を選んでいる子と並行読書マトリクスを見てペアを組む。 ④何度も相手を変えながらペアで練習してみる。 ⑤「もう付け足しの言葉は大丈夫」と思ったら、自席に戻って、もう一度付け足しの言葉を話してから、吹き出しカードに書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・付け足しの言葉を添えて何度も音読し、「もう付け足しの言葉は大丈夫」と思ったら付箋に記入するということを確認する。それを踏まえて、いくつも書いて貼っていてもよいし、難しい児童は、友だちと交流する中でヒントになったことを音読し、付け足しの一言が付箋に書けたらよいことを伝える。 ・<u>自分で考えることとペアで交流することを繰り返す中で、想像を広げていけるようにする。</u> ・児童自らが交流したい相手を見つけていけるように、誰がどの話を読んでいるかがすぐに分かる表(並行読書マトリクス)を掲示しておく。 ☆ゴールイメージや学習活動のイメージが具体的に分かるように、タブレットの中に見本となる動画を入れ、いつでも見られるようにしておく。 ・机間指導を行い、学習に困り感をもっている児童を見つけたら、個別の支援を行い、その後の学習が改善されるようにする。

令和3年度滋賀県総合教育センター
読み解くカプロジェクト研究のメンバー

トータルアドバイザー

京都女子大学発達教育学部教授	水戸部修治
東京大学大学院教育学研究科教授	藤江 康彦

研 究 委 員

彦根市立金城小学校教諭	北川 彩
近江八幡市立八幡小学校教諭	塚本 有貴
高島市立本庄小学校教諭	川端 宣実
野洲市立野洲小学校教諭	角 憲幸
長浜市立余呉小中学校教諭	清水としみ
米原市立伊吹山中学校教諭	藤川 直子
草津市立玉川中学校教諭	中田 利恵
大津市立日吉中学校教諭	苗代 峻平
豊郷町立豊日中学校教諭	松谷 直宏
栗東市立栗東中学校教諭	明石 勇氣

滋賀県総合教育センター

野本 幸造
前田 顕吾

